

第3回物質・デバイス領域共同研究拠点活動報告会

平成25年4月22日に「第3回物質・デバイス領域共同研究拠点活動報告会」が北海道大学学術交流会館において開催された。三澤弘明所長の開会の辞に続いて、来賓の文部科学省研究振興局学術機関課の小酒井克也課長補佐、次いで北海道大学の川端和重副学長の挨拶があった。午前のプログラムとして拠点本部長の八木康史産研所長から拠点活動報告があり、拠点の目的および活動の概要が紹介された。次いで、京都大学数理解析研究所の森重文所長より、「拠点活動の現状と目標」と題して、全国共同利用・共同研究拠点活動に関する国の取り組み状況についての特別講演が行われた。

昼食をはさんだ後、5つの領域の代表者が、領域概要と平成24年度の一般共同研究の成果について報告した。また、本拠点活動報告会を技術支援された大阪大学産業技術研究所の技術室より過去に行われた技術職員懇談会の概要を説明された。さらに、特定共同研究において、「グリーンナノサイエンス・デバイス研究開発」と「バイオメディカルナノサイエンス・デバイス研究開発」の2つのテーマに関して、オーガナイザーおよび共同研究者の計10名が、平成24年度までの研究活動報告をした。その後、2010年にノーベル化学賞を受賞された北海道大学の鈴木章名誉教授による「新しい炭素-炭素結合生成反応について」と題する約1時間の特別講演が行われ、活発な質疑応答があった。最後に開催された意見交換会では、武田薬品工業の残華淳彦リサーチマネージャーから本活動報告会に関する講評を頂いた。

今回の活動報告会では、拠点研究者、共同研究者、来賓、一般参加者をあわせて235名（サテライト会場含む）の参加をみた。また、テレビ会議システムを使って他の4拠点に動画を配信すると同時に、各拠点からの質疑応答をリアルタイムで受け付けた。その結果、一般共同研究、特定共同研究の成果の幅広いアピールができ、本拠点活動の質、量のさらなる充実に繋がったことが印象に残る報告会となった。

